

トップニュース

7万体の遺骨収めた原爆供養塔前で
広島市の西應寺・平さんが月命日法要



昨秋に急逝した吉川信晴さん。60年にわたって原爆供養塔の月命日法要を行ってきた（撮影＝宮崎園子／フリーランス記者）

吉川信晴さんの遺族・村上妙子さんの話

父は心の底から仏教徒であり、独自の世界を持って、それを変えない意志の強い人でした。日々の暮らしもそうで、さまざまな食材をパーストした手製ドリンクは父の自慢でした。重度の認知症を患い、あまり食事を摂れなくなった母の命を支えてもいました。相撲の四股踏みやダンベル上げも自己流で、亡くなる当日の朝もきつとルーティンとして本堂で行っていたことと思います。だからこそ母の介護をほぼ一人で続けながら、祖父から託された原爆供養塔への毎月のお参りを欠かすことがなかったのでしょう。

とはいえ人の言葉には耳を傾けますし、娘の私の議論を好んでいました。今日は新しい知見を得たと喜んでいて顔を今も思い出します。父の信念は仏教の教えによって紡がれたものでしょう。無我なる無上の智慧と慈悲を持ち得ない凡夫ながら、仏さまの教えが世間に少しでも伝わるようにと、高齢の身であってもX（旧ツイッター）で日々仏教に関することを発信していました。大きな愛の持ち主でもありましたが、広島東洋カープが負けた時の不機嫌そうな表情だけは「やはり人の子なのだ」と思わせてくれました。

「自分なりに手探りで」



月命日の6月6日、原爆供養塔前で法話をする平慈敬さん

広島市平和記念公園の原爆供養塔、通称「土まんじゅう」の前で戦後間もない頃から「6日」に営まれてきた月命日法要。60年にわたって勤行してきた吉川信晴さん（浄土真宗白蓮寺前住職）が昨秋亡くなり、被爆80年の今年、浄土真宗本願寺派の僧侶・平慈敬さん（43、同市中区中島町・西應寺衆徒）がそれを引き継いだ。仏教以外の信仰を持つ人、仏教でも他宗派の人、さらには旅の人も居合わせる場で読経し、法話で締めくくる営みは未知の世界だが「自分なりに手探りで続けたい」と言う。（文・写真＝佐田尾信作／ジャーナリスト・日本ペンクラブ会員＝広島市在住）



原爆供養塔は直径16メートル、高さ3・5メートルの盛り土。平和記念公園の北端、太田川が河口に向かって本川と元安川に分流する「慈仙寺の鼻」近くにたつ。この地には被爆直後から身元不明の遺骨が多数集められ、1946年に発足した広島市戦災死没者供養会（後の広島戦災死没者供養会）が市とともに「戦災死没者供養塔」や仮納骨堂、礼拝堂を建てて収容した。占領下にあった「原爆死没者」と公言できない時代だったの

が、い知る手がかりがある。広島女子高等師範学校附属山中高等女学校（の追悼記（1985年））に教官の星野春雄さんがあつた。46年、爆心地の慈仙寺に納骨堂が出来たというので、生徒たちのお骨を拾い集めて、焼け付けたような炎天下で、慈仙寺へ持っていった。あちこち拾い集めていたの

くて、いま、着いたのは、あの日（8月6日）の午後であった。もう納骨の部屋は上から下まで一杯で残り一立法米位しか空間が無かった。とつづけている。これで肩の荷が下りたという気持ちとともに、手記を寄せた52年の頃には再開されていた平和記念式典の喧騒を突き放して眺めていた。

供養塔は丹下健三氏設計の原爆慰霊碑（公式には広島平和都市記念碑）が同年に建立されると存続の議論

もあつたが、被爆10年の55年に現在の形に改められ、瀕死の被爆者が搬送された広島湾沖・似島などに安置されていた遺骨が移された。本願寺派の関係では50年代に龍仙寺（広島県府中町）や広島別院（広島市中区寺町）などに保管された遺骨が移されたという。その総数は推定7万体制とい

う。原爆供養塔は被爆者の佐伯敏子さん（2017年に97歳で死去）が40年以上にわたって周囲の清掃活動と証言活動を行った逸話でも知られている。生前の佐伯さんは「この階段（供養塔の階段）を降りると、ドアがあります。そのドアを開けると、八畳くらいの地下室が作られてあります。その地下室の中に入ると一番奥は壁が表れ、金箔でぬられ、祭壇が作られ、死者の大きなお位牌は北を向いて作られてあります。私たちは北側が表だと思っており、互いに身の上話をしていたという。原

爆は先祖の供養でさえなくなる一家全滅の悲劇をもたらし、なぜ戦争は起きるのか。心の問題ではないのか」といった父元晴さんの説法を聞いたことがある。信晴さんは94年の記事で語っていた。

「恥ずかしながら供養塔の月命日法要のことは知らなかったが、有り難い縁でお断りする選択はあり得なかった。何か知っているつもりになるより自分なりに手探りで続けた」と控えめに語る。

今年1月から供養塔の前に立つ。月命日法要は午前9時に始まり、皆で「重誓偈」を読んだ後、法話で締めくく。6月6日は「兵器あるいは武器と呼ばれるものについて語った。平さんは『人を殺すための道具』となれば嫌だと思

う私がいる一方で、『人を守るための道具』と言われるものでしょう」と問いかける。本質は変わらないのに、人を守るのだと言われると歯止めがきかなくなる「私」。人は置かれた立場によつて何をすべきかわからない存在だと「数々異抄」の一節も引く。

法話が終わると参加者は談笑し、草抜きをし、三々五々解散した。2025年の8月6日はもう近い。

80年の年に受け継いだもの



本川と元安川が分かれる「慈仙寺の鼻」。右手の木立の中に原爆供養塔がたたずむ。左端に見えるのが原爆ドーム

「恥ずかしながら供養塔の月命日法要のことは知らなかったが、有り難い縁でお断りする選択はあり得なかった。何か知っているつもりになるより自分なりに手探りで続けた」と控えめに語る。

今年1月から供養塔の前に立つ。月命日法要は午前9時に始まり、皆で「重誓偈」を読んだ後、法話で締めくく。6月6日は「兵器あるいは武器と呼ばれるものについて語った。平さんは『人を殺すための道具』となれば嫌だと思

う私がいる一方で、『人を守るための道具』と言われるものでしょう」と問いかける。本質は変わらないのに、人を守るのだと言われると歯止めがきかなくなる「私」。人は置かれた立場によつて何をすべきかわからない存在だと「数々異抄」の一節も引く。

法話が終わると参加者は談笑し、草抜きをし、三々五々解散した。2025年の8月6日はもう近い。

定期休刊のお知らせ 7月10日号（第3560号）は定期休刊です。次回発行は7月20日号です。

本願寺新報

hongwanji journal

7月1日(火曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501 本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

寺院仏閣のトータルプランナー

株式会社 あいぞの
株式会社 あいぞの 寺社ラボ

オリジナル納骨壇・本堂仏具工事・寺院設計・建築及び資産法務相談

福岡市早良区 2丁目7番13号
https://www.aizono.co.jp/ 0120-168-940

今号の紙面

法名入り名札を付けよう……………8



- みんなの法話……………4
- 学ぶ親鸞聖人 ご生涯×教え…5
- お釈迦さまの前世物語……………3
- 季節の養生と薬膳……………3
- 本願寺インスタ倶楽部……………3
- 読者のひろば……………7

赤光 白光

仏典のなかに「谷千指恭敬相」ということばがある。「合十指」とは合掌のことで、それは恭しく敬っている相であるということばである。

▼私たちは毎日食事のとき、仏さまにお参りするとき、手を合わせて合掌する。ある人はいう。人間の姿の中で最も美しいのは合掌している姿であると。人が仏像に接したとき、その前で手を合わせるの、仏を恭しく敬うところであり、姿である。それは自然にあらわれてくる。もし、合掌しない人があれば美術鑑賞として眺めているにすぎない。それは、宗教とは無縁の世界である。

▼合掌し合っている姿も美しい。そこには距離感も上下の感覚もない。一体の姿といってよい。タイに出かけたとき、朝、散歩していると、一人の僧の姿が見えた。近づいてみると、町の人がその僧に物を捧げているところだった。よく見ると、僧と町の人合掌し合っている。それは、互いに敬い合っている姿であった。ふと善財童子の姿が浮かんでくる。さまざまな職業の人を訪ねて法を求めていく善財童子の姿である。相手を敬うその様子は、私たちに大切なことを教えてくれているようだ。

▼本山の降誕会に参拝していた團圓たちの合掌の姿を見て、その美しさとかわいさに、しばらく見入っていた。日野誕生院にある親鸞聖人のご幼少のお姿と重なって見えた。合掌の姿に出会うと、こちらも自然と手が合わさり頭をたれている。合掌とそのことを忘れないで一生を過ごしていきたいものだ。

購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181/大谷本願 075(531)4171

宗派公式Webサイト https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ https://www.hongwanji.kyoto

浄土真宗本願寺派 傷害・医療保険

あんのん医療保険

【加入対象者】浄土真宗本願寺派の住職・僧侶・寺族・門徒およびその家族

病気やケガによる入院や手術等を幅広く補償。(天災によるケガも対象)

◆1日5,000円プランより ◆入院1日目より補償

★新規加入は満79歳まで、継続加入は満89歳まで拡大

介護・がんのリスクにも対応!!

介護特約 要介護2以上の認定、または保険会社所定の要介護状態が90日を超え継続した場合に、一時金で100～300万円を補償

がん特約 がん診断一時金 がん通院治療費用 にかかる特約もセット可能

フリーコール 0120-37-0243

https://www.purani-hongwanjihahoken.com

＜取扱代理店＞ 株式会社 プラニ

浄土真宗本願寺派提携代理店

〒600-8109 京都市下京区堀川通花屋町下ル 420Pビル 3F

御本山御用達 開明社員

井筒法衣店

代表取締役社長 今岡隆代

本社 600-8468 京都市下京区堀川通 新花屋町角（西本願寺）

TEL 075-351-1334 FAX 0120-075-720

TEL 075-341-7905

東京店 160-0008 東京都新宿区四谷 三栄町十四番地二一

TEL 03-3358-1500 FAX 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから→

好評 わが身のありように気づかされる掌編エッセイ集

自然の声に聞く1・2・続4

大田利生著

B6判・中綴・各28／36頁 各165円

※50部以上1割引／100部以上2割引

お施本にも最適

橋本半風子著 他力の五七五⑥

悪人の俳句・善人の俳句

他力真宗の味わいを俳句とエッセイに詠む

無量光 追はへど 追はへど 追はへど

悪人の俳句 善人の俳句

定年退職を機に俳句を始め、仏教の法座に通うようになって二十数年「善人なほもつて往生をとく。いはんや悪人をや」罪惡深重・煩惱具足の凡夫であるわたしこそが、如来の救いのめあてであるという浄土教の真髄を、季節の風物との語りの中で味わう

四六判・上製・160頁 2640円

ホームページ: https://jishosha.shop-pro.jp

合同会社 自照社 【赤井智朗 師 書き下ろしコラム配信中!!】

滋賀県大津市日吉台4-3-7 電話: 077-507-8209 FAX: 077-507-9926

DAIJO 7月号

本日発売! 毎月1日発行 B5判/80ページ

好評連載

- DAIJO法話……………中川 大城
- みのりのエッセー……………和氣 秀剛
- ご機言! お寺の掲示板……………江田 智昭
- 結婚してお坊さんになりました……………前田 純代
- つながる医療と仏教……………田畑 正久
- 大乘 ほうわ・HOWA・法話……………大田 利生
- なるほど仏教ライフ……………星 顕雄

年間購読料 4,500円(税・送料込) 1冊 375円(税・送料込)

本願寺出版社

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)

0120-464-583 FAX 075-341-7753

https://hongwanji-shuppan.com/